

回復ドライブなしでパソコンを復旧

JJ1SXA/池

2022年12月発行の「TWO-FORTY誌第114号」の記事として書いた「回復ドライブ作成」という記事を、2022年10月に、HPにも「パソコンの起動不能に備え、転ばぬ先の杖」として載せていますが、不幸にして？、この回復ドライブ作成をしない内にパソコンが起動不能になった、さてどうする？、打つ手はあるのか？、それが今回のテーマだ。

回復ドライブは正常時の当該機種でないと作れないので、起動不能状態でそれが手元にないと、パソコンを購入時の状態には戻せない。

だが、諦めるのは早い、新規インストールでWindowsを再インストールする手がある、回復ドライブは当該機種固有のアプリやドライブソフトを含みメーカー製パソコンを購入時の状態にもどすのだが、新規インストールはまっさらなWindowsをインストールするもので、回復ドライブとの大きな違いは、Cドライブをフォーマットしなければ、以前のCドライブの内容が「Windows・old」というフォルダに退避される、深刻なトラブルならCドライブのフォーマットまで徹底的にやった方が良いが、以前のデータを残したいなら、個人データのバックアップが不可欠だ。

Windowsを購入しないでも使えるのは、Windowsのライセンスキーはパソコンにひも付けられており、ネットに接続した時点でライセンス認証されるのだ、これが、まっさらなWindowsを購入せずに使える理由だ。

新規インストールするには、マイクロソフトが無償配布しているツールを使い、新規インストール用USBメモリーを作成する、回復ドライブとは異なり、ほかのパソコンで作成できる、ツールを起動したら指示に従って書き込む。

作成したUSBメモリーを起動不能パソコンに挿して電源を入れると、USBメモリーから起動してインストーラーが開く、インストールの種類では必ず「カスタム」を選ぶ。

インストール先に、Cドライブを選ぶと、CドライブにまっさらなWindows環境が構築される、後は、セットアップ作業を行う。

フォーマットしていなければ、作業が完了すると「Windows・old」フォルダーに、以前のCドライブの内容が退避される、必要なら、ここから個人データを抜き出せば良い、ただし、このフォルダーは30日後に自動で消去される。(クリーンアップ機能でも削除されるので要注意だ)

Windows11のHomeでデバイスの暗号化、Windows11 ProでBitLockerが有効の場合、そのままだとインストールできない、内蔵ドライブの領域をすべて消去してからインストールする、その場合データはすべて消える、バックアップを取ってない場合でも、事前に救出を試みる方法もある、回復ドライブ又は、新規インストール用USBメモリーからパソコンを起動、コマンドプロンプトを使ってデータを救出するのだ。

(2023年1月記)